

単元名

「水道水と安全」

授業日時 2021 年 11 月 15 日（月）第 2 校時

授業学級 4 年 1 組

授業会場 4 年 1 組教室

授業者

指導者

(1) 主眼

水が長い道のりを経て附属小学校や様々な場所へと運ばれていくことを学んだ子どもたちが、水道の水を安心して飲める理由について考える場面で、水道管を管理する人々の取組や過去の水道の水について学ぶことを通して、水道水の管理をしてくださる人々へのありがたさや水道の水を飲めることが当たり前のことではないことに気づくことができる。

(2) 展開

	学習活動	予想される子どもの反応	「授業者の主な発問」・※重要な留意点・【教材】	時間
導入	1. 前時の内容を振り返る。	・水のもととは川だって言ってたけど、水は循環しているし、海も森林も地下水も湧き水も「水のもと」じゃないのかな。 ・川とか山とか言ってたけどごちゃごちゃでよくわからなかったな。	※水のもとについて主に川であるが、海や山といった他の要素も水のもとになる過程の中にあるということを確認する。 ※附属小学校の水についての補足説明を行う。（夏目ヶ原浄水場できれいにした水に犀川浄水場で作った水をブレンドしていること） ※ブレンドの概念を前の授業で挙げてくれた子どものことに必ず触れる。	7
	2. 水道の水がなぜ安全に飲めるのかについて考える。	【学習問題】 どうして私たちは水道の水を飲むことができるのだろうか。 【学習課題】 水道の水を飲むことができるようになるまで、人々がどのようなことに取り組んでいるのか考えよう。 ・浄水場で水がきれいになるから安全に飲めるんじゃないかな。 ・日本の水自体がきれいだから。この前見たスーダンの水みたいな水とは違うから。 ・もしかしたら日本も水道の水を飲んで具合が悪くなった人もいないかもしないし、だから今は大丈夫だけど...うーん...	※前回の振り返りで水が安全に飲めることを不思議と書いてくれた子どもの疑問をスライドに提示し、今回の授業でこのことについて考えていくという方向性を示す。 ※安全ではないかもしれないという視点にも触れ、心配に思う声も重要であることをクラス全体で確認する。 「どうして水道の水を飲むことができるの。」 「じゃあ、毎日使っている水道の水は誰が飲めるようにしてくれているのかな。」	10
展開	3. 安全な水道水を作る人たちはどのような仕事をしているのかについて考える。	・51 のやつ知ってるけどフッ素も検査しなきゃいけないんだ。フッ素って歯磨き粉とか・フライパンに使われてるものなのに。 ・水がきちんと運ばれるために水道管が水道局の人達の手によって管理されているんだ。 ・漏れた場所からも水が汚れてしまうこともあるんじゃないかな。 ・昔は水道の水がきっかけで病気に苦しんできた人がいたんだ。今だったらあまり考えられないな。	※今回の授業では主に水道管について主に取り上げる。 ※検査における 51 の水質基準項目や、水道管の点検をしなかった場合に予想されること(主に漏水・病気について)を取り上げ、その事実から考えたことを全体で話し合う。 ※病気に関する話題はセンシティブな話題であるため、細心の注意を払う。そのような過去があり今の安全を守る取組に繋がっていることを大切に伝える。 「水道水には良い面もあれば悲しい過去もあるけど、それを乗り越えようという今の取組がある。」	18
終末	4. 振り返りを行う。	・水が飲めることはやっぱり当たり前なんじゃない。 ・浄水場も安全に飲めるようにするために役割を果たしている。	※振り返りを書いてもらう間(少なくとも 5 分)に子どもの感想を見て回り、クラスで共有したい内容があった場合指名する。 ※何人かに感想を共有してもらう。 【本時の評価(評価する対象)】 水道水の管理をしてくださる人々へのありがたさや水道の水を飲めることが当たり前のことではないことに気づくことができる。	10